

報告書

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満用)

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form (for programs from one semester to a year)

記入日/Date: 2022/7/14

■ID: A21083

■参加プログラム/Program: 全学交換留学

■プログラム情報/Program info.: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTER.html>

■派遣先大学/Host university: ウォーリック大学

■留学期間/Program period (yyyy/mm/dd): 2021/9/27 ~ 2022/7/3

■東京大学での所属学部・研究科等/Faculty/Graduate School at UTokyo: 教養学部教養学科超域文化科学比較文学比較芸術

■学年(留学開始時)/Year at the time of study abroad: 学部4年

■留学を決めるまでの経緯/How and why did you decide to study abroad? :

高校生の時に参加した海外派遣プログラムでアメリカの大学を訪問したことが留学に憧れを持ったきっかけである。そのため高校生の時から大学に入学したら留学を必ずしたいと決め、入学時から少しずつ情報収集を進めていた。コロナの影響で3年次での留学が困難になった時には4年次に行くかどうかを迷ったが、やはり諦めきれなかったので再挑戦する決意をした。

留学の時期について/About the timing of the study abroad period

■留学前の本学での修学状況/Academic status BEFORE the program :

2021年/Academic year / 学部4年/University year / S2学期まで履修/Completed semester

■留学中の学籍/Academic Status during the studying abroad/program :

留学

■留学後の本学での修学状況/Academic status ON RETURN :

2022年/Academic year / 学部4年/University year / A1学期から履修開始/Semester

■留学にあたってこの時期を選んだ理由/Reason for choosing this period to study abroad :

本来は学部3年の秋学期からの1年間で留学する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、やむを得ずこの時期での留学になった。

学習・研究について/About study and research

■留学先で履修した授業科目と単位数の詳細/Subjects taken and credits earned :

- ・French Cultural Landmarks: Love, Language and Power/15 ECTS
- ・Introduction to Art History: The Natural World and the Arts of Modernity/15 ECTS
- ・Introduction to Art History: Classicism and the Arts of Christianity/15 ECTS
- ・East meets West: The Visual Arts in Colonial and Post Colonial India/15 ECTS

■留学中の学習・研究の概要/Overview of the study/research during study abroad :

French Cultural Landmarks: Love, Language and Power1週間に、講義(30分から1時間程度)が1

～2 個。セミナー(1 時間)が 1 回。講義は全て録画で何度も見返すことができた。セミナーは対面で行われ、先生 1 人に対して、学生が 3～5 名程度だった。課題の作品を読み、講義を受けてから、セミナーのワークシートに取り組み、セミナーに参加して話し合うという形式だった。授業は秋学期と春学期のみに行われ、評価はレポートが学期に 1 本ずつと、夏学期にオンラインでの試験が課せられた。予習でフランス文学の作品(英訳版と照らし合わせながら)読むのがかなり大変だったが、講師との距離がとても近く、人数も少なかったために発言の機会が十分に与えられていたのがよかった。

Introduction to Art History: Classicism and the Arts of Christianity 秋学期に行われていた学部 1 年生向けの必修科目。古代ギリシャ・ローマからルネサンスまでの芸術史を扱う。1 週間に 1 時間の講義が 2 個と 2 時間のセミナーが 1 回行われた。講義はオンラインでセミナーは対面だった。セミナーでは先生一人に対して学生 5 人程度だった。予習は講義への参加とリーディング課題。評価はレポートと夏学期に行われる試験。リーディングはそこまで量が多くなく、セミナーも先生が自由に話し合いのテーマを出したり、学生の興味や疑問に合わせて行うような形で進められた。

Introduction to Art History: The Natural World and the Arts of Modernity 上記の必修科目の続きのような形で春学期に行われた科目。ルネサンスの後から現代美術まで。授業の形式は概ね上記と同様。異なる点は、コロナ対策の緩和で講義が対面になったことと、セミナーの人数は多い時には 10 人ほどいたこと。予習の形式もほとんど同じであったが、1 人 1 回、セミナーの中で 5 分から 10 分程度のプレゼンテーションを行うことが課され、担当の週の前にはその準備も行う必要があった。評価やセミナーの形式も上記同様。リーディングの量は秋学期の科目よりは増えた印象で全て読み切るのは難しかった。

East meets West: The Visual Arts in Colonial and Post Colonial India 学部 3 年生と大学院生向けの授業。イギリスによるインド統治という視点でインドの芸術を考える科目。1 週間に講義とセミナーのハイブリッドのような形式の授業(2 時間)が 2 回で、予習はリーディングのみ。ただ、このリーディングの量が多くなり、自分の履修科目の数を考えると他の科目の予習と並行して全て読み切るのはほとんど不可能に近かった。評価はレポートが一本と夏学期に試験。特に印象に残っているのは、Introduction to Art History の 2 つの科目で、それぞれ 6 週目に授業の代わりに、先生とともにロンドンの美術館を訪問し、授業のテーマに関連する作品を先生の解説付きで見てもわる遠足のようなイベント。特に春学期の方では、先生のお父様がその美術館で昔働いていたとのことで、その方のガイド付きでもわるという大変貴重な経験ができた。

■ 留学先での 1 学期あたりの履修科目数と履修単位数/Number of subjects registered per semester and credits earned per semester :

4～6 科目/Subjects / 11～20 単位/credits

■ 1 週間あたりの学習・研究に費やした時間/Hours spent for study/research per week :

16～20 時間/hours

■ 学習・研究以外の活動で取り組んだもの/Activities you took part in other than study/research :

文化活動, ボランティア

■ 学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由/Details of the activities you chose, or the reason why you did not take part in any activity other than study/research :

<フードバンクのボランティア>フードロス問題に興味があったので、留学前から参加を考えていた。大学のボランティア募集ページから応募して参加した。週に 1 回平日午後の時間帯の開催が多かったので授業との兼ね合いで 2 度の参加に終わってしまったが、実際にフードバンクに行き、倉庫で集められた食品の仕分け作業などを行った。回収された食品が、どのような形で必要とする人々の元へ届けられるのかを

目にすることができ、それに貢献できたので参加してよかったと思う。

<Language Society> 学生主導のさまざまなレベル、言語の語学レッスンや交流イベントが開かれるサークル。先生が学生なので参加のハードルが低く、イベントでは英語を第二言語とする人や言語の学習に興味がある人が多かったので友達を作りやすかった。私は参加しなかったが、バディの制度もあり、お互いに母国語や得意な言語を教え合う仕組みもあった。

<Japan Society> 日本人や日本にルーツがある人、また、日本の文化や社会に興味がある人が集まるサークル。ここで多くの日本人留学生に出会うことができ、色々な情報交換だけでなく、帰国後も続くような友情を築けたので参加を強くすすめる。

■ 週末や長期休暇の過ごし方/How did you spend the weekends and vacations? :

週末は、授業の課題や予習を進めたり、イギリス各地の都市を訪れたり、友人と会ったりした。長期休暇には主に国内外を旅行した。また、こうした各地で個人的な興味から数多くの美術館を巡った。海外の美術館は写真撮影が可能なおところが多いので、気になった作品は写真におさめ、あとで見返して調べるなどした。また、チケットやギフトショップで学生割引が適用される美術館が多いので活用すべきである。ちなみに Student Art Pass という年間 5 ポンドで様々な美術館で割引を受けることができるカードを発行したが、大体の美術館が大学の学生証を見せるだけで適用してくれたのでそこまで発行の意義は見出せなかった。

派遣先大学の環境について/About environment at the host institution

■ 設備/Facilities :

<図書館> キャンパスの中心にあるセントラルライブラリーをいつも利用していた。試験前の期間などになると 24 時間営業になるので便利だった。学習スペースもかなりあるが、混雑することも多い。階によって許可される飲食物の種類や、静かさが異なるので、自分の用途に合わせて選んで利用できるのはよかった。

<スポーツ施設> キャンパスのはずれに巨大なスポーツ施設があり、学生は約 100 ポンドで年間を通じて利用可能。ただ、この料金を購入できるのは新学期の期間に限られるので利用を決めている人は最初に購入した方が良いと思う。一回限りの利用なども可能。ボルダリングの施設が目玉。

<食堂> 学生食堂のようなものはないが、キャンパスの各所に飲み物や軽食を販売するカフェが多数ある。ただ値段はそこまで安くはない上、ガッツリしたものはあまりないので自炊したほうがかなり安上がり。

<PC・Wi-Fi 環境> 図書館やその他施設に学生が利用できるコンピュータは多数用意があるが、ほとんどの学生が自分の PC を利用していたと思う。Wi-Fi は eduroam がキャンパス全体に通っており利用可能。ごく稀にキャンパス全体やエリア全体で繋がらなくなることがあったが、大抵数時間で復旧する。

■ サポート体制/Support for students :

<語学面> 利用しなかったため実際の様子はわからないが、英語が母国語ではない学生向けに英語のクラスをお昼や放課後の時間帯に開催しているようだった。

<学習面> 学部や図書館がレポートの書き方や研究の仕方について多様なサポートセッションを用意している。またチューター制度があり、教授や修士・博士の学生が面談を定期的に行ってくれたり、相談に乗ってくれたりする仕組みがある。

<生活面> 24 時間体制のキャンパスセキュリティがあり、緊急事態においてはその電話番号にかければ対応してもらえる。また、学生ボランティアによる生活面における相談窓口もある。

<精神面> メンタルヘルスのサポートとして、電話相談窓口や、24 時間利用可能なチャットのサービスなどがあった。

<p>■ 宿泊先の種類/Type of accommodation :</p>
<p>学生寮</p>
<p>■ 宿泊先の様子、どのように見つけたか/Environment around the accommodation and how did you find it :</p>
<p>オンキャンパスの学生寮の一つ Tocil に宿泊していた。個室だが、12 人でキッチンとシャワー(3 つ)、トイレ(4 つ)を共有。バスタブもあったが、シャワーヘッドなどはついていないため誰も使っていなかった。徒歩 1、2 分の距離にコインランドリーがある。個室には、勉強机、イス、クローゼット、全身鏡、ベッド(マットレス付き)、ベッドサイドテーブル、カーテン、照明、暖房が備え付けてある。キャンパスの中心まで徒歩 5 分ほどで中心にある学部棟や図書館などにはかなりアクセスがよかった。情報は大学の学生寮紹介ページで見つけたが、同大学に留学していた先輩の話、また、イギリスの学生向け掲示板(the student room)も参考にした。</p>

<p>■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等/Climate, environment around the institution, transportation, food, etc. :</p>
<p>〈気候〉冬は基本的に 10 度以下でかなり寒くなる。夏も 20~25 度で夜は肌寒いことが多いが、暑い日には 30 度近くになり、冷房がないことが多いため注意が必要。日差しもかなり強いため、日焼け止めは必須(現地で購入可能)。雨が多いが、乾燥もかなりひどいため、肌や喉の乾燥に要注意。(喉の乾燥は風邪や扁桃炎の原因になりやすいため特に注意)。</p> <p>〈大学周辺の様子〉キャンパス自体は街から離れた場所にあるが、中にカフェやレストラン、小さいスーパー(割高)、郵便局などもあるため基本的な生活や買い物は済ませられる。キャンパスから徒歩 10~15 分ほどのところに大きいスーパーマーケットや生活用品店、薬局、アジア食材店が集まる小さいショッピングセンターがあるので大体の買い物はそこでしていた。コヴェントリーという街の中心部にはキャンパス中心のバス停からバスで 20 分程度で、ファッションや雑貨の店、レストランなども多くある。</p> <p>〈交通機関〉最寄りの鉄道駅(Coventry)まではキャンパス中心からバスで 15 分程度。徒歩 30 分の距離には Canley という小さい駅もある。バスで 30 分程度の場所に Leamington Spa という駅もある。バスは現金またはコンタクトレスのカードで乗車可能。電車は、学生割引を受けるために Rail card を購入し、さらに Train pal というアプリで安いチケットを探して購入していた。購入のタイミングでチケットの値段が変動するので、早めの購入をすすめる。</p>
<p>■ お金の管理方法、現地の通貨事情/Management of money and situation about local economy :</p>
<p>wise(手数料を抑えて海外送金できるサービス)で日本の口座から MONZO というオンラインバンクの口座(速ければ 5~10 分でアプリ上で開設可能)に送金して現地通貨を使っていた。はじめは日本のクレジットカードと併用していたが、レートが非常に悪くかなり損をしていたので、途中から MONZO のみを使うようになった。日本人の他の留学生は、一つの口座の中で、両替や複数通貨の所有が可能なソニー銀行の口座を作って利用している人が多かった。</p>
<p>■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理/Aspects of risk and safety management, local health care system, and any actions taken to maintain your health :</p>
<p>イギリスやロンドンの治安はそれほど悪いわけではないが、夜に一人で街を出歩かない、貴重品は常に身につけるなど基本的な盗難対策や防犯は行なっていた。キャンパス内に保健センターがあるものの、最初は電話診療で、そこで対面の診察が必要と判断された場合のみ医師に診てもらえるので、ちょっとした症状や風邪などは常備薬や現地の薬局で買える薬などで対処していた。かなり乾燥がひどいので、喉の</p>

乾燥が気になる時は、現地ののど飴 (strepsils) をよく買っていた。蜂蜜も常備しておくと思便利だと思う。12月に入ると日がかなり短くなり、日光を浴びる時間が減るため、精神的に参りそうになることもあったので、ビタミン D の錠剤を薬局で購入して飲むようにしていた。

留学前の準備・手続きについて / About preparations and procedures before studying abroad

■ 留学先への入学手続き / Procedures for enrollment required by the host institution :

東京大学からの推薦を受けた後に、留学先に成績証明書、在学証明書、語学力の証明 (IELTS)、Personal Statement (800 words 程度、志望理由や将来のキャリアプランにどのように経験を生かすかについて)、推薦状を提出。Personal Statement は、取りたい授業とその理由などを含め、できるだけ具体性を持たせて書いた。特に添削などはしてもらわなかった。英文の推薦状は、学内選考の志望理由や Personal Statement などを参考に送付し、コースの教授に依頼した。提出書類は、ウォーリック大学の申請フォームに回答する際にアップロードして提出したが、推薦状については、学生が推薦者の連絡先のみを記入し、ウォーリック大学から直接推薦者に提出の依頼が届く形となっているため、その旨をあらかじめ推薦者に説明し、その提出依頼にしたがって提出してもらうようお願いした。この申請フォームでは、個人情報や学歴、コースの希望などが聞かれる。

■ ビザの手続き / Procedures to obtain visas :

イギリスの学生ビザを取得した。イギリス政府のホームページからオンラインで申請できる。オンラインでの申請を終えると、都内のビザセンターでの申請手続きの予約をする。予約した日に、パスポートや必要書類を持参し、提出する。通常 10~15 営業日かかるが、Priority Service (約 3 万円) で 5 営業日に短縮できる。ビザ発行完了の連絡がメールで届くので、届き次第再度ビザセンターに行き、受け取りを行う。郵送での受け取りも可能。注意点は、ビザ申請に留学先大学から通知される CAS 番号が必要であるということ。私の場合、この CAS 番号の通知がなかなか来なかったため、申請自体が出発直前になってしまい、出発の便に間に合うようにビザを受け取るために Priority Service を利用せざるを得なかった。CAS 番号の入力欄に一時的に任意の番号を入力すれば、続く質問の回答が可能で、最後に CAS 番号の部分のみ回答を編集できるので、CAS が届いたらすぐにフォームを提出できるように先に他の質問項目に答えておくことを強くおすすめする。パスポートに貼付されるのは仮のビザで、イギリスに入国する時にのみ有効なので、到着後大学に届く BRP カード (在留許可証) (申請プシオンを選択した) を受け取る (申請時に大学で受け取るオプションを選択した) ことで手続きが完了する。ビザの申請については、留学先大学が留学生向けのビザ申請のマニュアルをホームページなどに掲載していることが多いので、それを参考にしたり、インターネットで情報を収集したりして手続きを進めた。

■ 医療関係の準備 / Preparations or actions taken to maintain your health :

学生ビザの取得には、イギリスの国営医療サービス利用料の納入が義務付けられるので、それを使って、大学内の保健センターに登録でき、無料で診察を受けることができる。健康診断は現地で行うとの記述があったが、結局行われなかった。髄膜炎ワクチン MenACWY の接種が推奨されていたため、駒場の保健センターで接種した (特に確認などはなかったので個人の自由)。常備薬として鎮痛剤、整腸剤、風邪薬、ビタミン剤を持参した。ビタミン剤はイギリスで安く簡単に購入できるが、風邪薬はあまり効かないと感じたり、逆に成分が強すぎる場合もあるので、飲み慣れた日本のものを多めに持っていくことをおすすめする。イギリスではどこの大学でも Fresher's Flu と呼ばれるインフルエンザと似た症状を発症する熱風邪が毎年 9・10 月に流行るので、風邪薬は必ず持っていくべきだと思う。

■ 保険関係の準備 / Preparations/procedures for insurance :

付帯海学保険のみ加入した。

■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)での手続き/Procedures required by faculties or graduate schools at UTokyo :

教務課に留学届を提出した。卒業論文については、出発前に題目発表会のみ参加し、翌年(帰国後)の中間発表会に参加。

■ 語学関係の準備/Language preparation :

出発前の語学レベルは IELTS 8.0(ただしスピーキング 7.0、ライティング 6.0)。英語で学ぶことに慣れるために出発前のセメスターは PEAK の授業を一つ履修した。

費用・奨学金に関すること/About expenses and scholarships to participate in studying abroad

■ 参加するために要した費用/Expenses of participation :

航空費/Airfare	178,130 円/JPY
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)/Payment to host institution (tuition, facilities fee, etc.)	0 円/JPY
教科書代・書籍代/Textbook / Book	0 円/JPY
海外留学保険料(東京大学指定のもの)/Overseas travel insurance fee (designated by UTokyo)	90,000 円/JPY
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)/Insurance and/or social security (required by host institution/region/country)	73,475 円/JPY

■ その他、補足等/Additional comments :

英国学生ビザ申請料: 54,403 + 34,393 (priority visa サービス料) = 88,796 円

■ 留学先での毎月の生活費/Monthly cost of living during the study abroad period :

家賃/Rent	80,000 円/JPY
食費/Food	15,000 円/JPY
交通費/Transportation	15,000 円/JPY
娯楽費/Entertainment/Leisure	35,000 円/JPY

■ その他、補足等/Additional comments :

SIM カード: 1,600 円、洗濯代: 3,000 円

■ 留学のための奨学金の受給有無/Scholarships for study abroad :

受給した。

■ 奨学金の支給機関・団体名等/Name of the source of the scholarships :

JASSO

■ 受給金額(月額)/Monthly stipend :

80,000 円

■ 受給金額についての補足等/Additional comments about the monthly stipend :

■ 奨学金をどのように見つけたか/How did you find the scholarships? :

大学(本部)からの紹介

今後の予定について/About your future plans

■ 留学先で履修した授業科目のうち、単位認定申請をする(予定のもの)/The subjects for which you plan to (are planning to) transfer credit to UTokyo :
なし
■ 留学前に取得済みの単位数/Number of credits earned at UTokyo BEFORE your study abroad :
131 単位/credit(s)
■ 留学先で取得し、単位認定申請を行う(予定の)単位数/Number of credits earned and (planned to be) transferred to UTokyo :
0 単位/credit(s)
■これから本学で取得予定の単位数/Number of (expected) credits to be earned on return :
14 単位/credit(s)
■ 卒業/修了予定/(Expected) year/month of graduation (yyyy/mm) :
2023 年 3 月

留学を振り返って/Reflection

■ 留学の意義、その他所感/Impact of the study abroad experience on yourself or your thoughts :
<p>私がイギリスへの留学を希望した理由は三つあり、一つ目が国際色豊かな環境で学ぶこと、二つ目が芸術や文化財へのアクセスの良さ、三つ目が語学力の向上である。一つ目に関しては、ウォーリック大学自体は学生のバックグラウンドが多種多様で、特にインド美術の授業では、履修する学生の国籍や人種が多様で思い描くような授業環境だったと思う。一つの作品に対してもそれぞれの視点から全く違った気づきがあり、それを自由に発言できる雰囲気良かった。一方で、フランス文学や美術史の通史の授業などでは、科目の性質上、西洋圏以外の留学生の比率は非常に低かったので、イギリスの、またその中でも留学生の多い大学だからといってどんな科目や学部でも一概にそうと言えるわけではないということがわかった。二つ目に関しては、まず、自分が卒業論文で研究対象にする予定のバルビエの挿絵本の現物を、ロンドンの図書館で実際に手に持って閲覧することができたことが大変意義深かったと思う。また、イギリス各地やヨーロッパの多数の美術館に手軽に足を運ぶことができたことについても留学の目的を果たすことができたとして満足している。ウォーリック大学の図書館の芸術に関する蔵書も東京大学のそれと比べると格段に多い印象で、その豊富な文献を使ってレポートなどを書けたことも良かった。三つ目については、特にアカデミックな英語で文章を書く力と語彙力の向上が成果として挙げられたと思う。一年を通して、レポート課題や記述式の試験をたくさんこなす必要があったため否が応でも英語で文章を書く必要に迫られ、表現のバリエーションや辞書を見ずに使えるようになった語が増えた自信がある。また、文学や芸術の授業だと表現に関する語彙が頻繁に使われるため、よく使われる単語は自然と覚えるようになった。普段のコミュニケーションでもよく使われる単語や最近の言葉などを覚えるようになり、それを自分で使えた時は嬉しかった。一方で、最も向上させたかった話す能力については、萎縮してしまっと思うように自分の意見が言えなかったり、友人と話していて、言いたいことがあっても説明が難しそうだと思って諦めてしまったりすることもあったので、その点は間違いを気にせずとにかく話すことを意識すればもっと良かったのではないかと思っている。また、そのコミュニケーションや議論において萎縮してしまうことが、日本語でも英語でも、自分の弱みや課題であるということに気づけたので、そこをより一層強化していきたいと思った。</p>
■ 今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響/Impact of the program on your thoughts for a career or

job hunting :
<p>私は将来英語を生かして海外で活躍できる仕事に就きたいと思い、その実現のためにも留学に挑戦したが、今回の留学で海外で働く上で、自分に足りていない部分が見えたと思っている。イギリスで一年間過ごしてみて、授業中の議論だけでなく、普段の他愛もない会話の中でも、複数人で話している時には誰かが前に出て自分の話をして会話をリードし、一人が終わるとまた一人が自分の話をして会話が続いていくように思えた。日本人同士の会話では、誰かが話をする、全体がまずそれを聞き、それに対して思うことや反応をして、話していない人にどう思うかを聞くなどするのに対し、イギリスでは、とにかく自分の話をした者勝ちというような印象を受けた。そんな中で自分の話をしっかり聞いてもらうためには、誰かに聞かれるのを待っている場合ではない。授業中の議論においても、率先して考えを発表する学生の一つの意見から議論が始まっていく様子を何度も見た。こうした中で、先の質問の回答にも関連するが、海外で働く上では、自分には良くも悪くもこの凶々しさが足りていないと思った。どんな仕事でも交渉や議論は避けては通れないので、そのような場で相手の意見や思惑に押し流されず、対等な立場で議論しあえるように、少しばかりの強引さを持って臨む必要があると感じた。</p>
<p>■ 留学による今後のキャリア・就職活動へのメリット・デメリット/Merit/Demerit of studying abroad on your future career/job hunting :</p>
<p>メリットは、自立、自分の強みや弱みに向き合えること。また、留学という同じ境遇や似たような志望を持った日本人学生同士で情報交換をすることができること。デメリットは、就職活動のタイミングや対面の就職活動イベント等への参加を図ることが難しくなること。</p>
<p>■ 留学中に行った就職活動/Job hunting activities during study abroad :</p>
<p>社会人との接点をもつように心がけた。</p>
<p>■ 進路・就職先(就職希望先)/Career/Occupation (planned) :</p>
<p>民間企業</p>
<p>■ 今後留学を考えている学生へのメッセージ、アドバイス/Any messages or advice for future participants :</p>
<p>もし留学をするかどうか迷っているのであれば、私は絶対に挑戦することをおすすめします！もちろん留学で学問、語学力の向上、人生経験など様々な目的を果たすことができますが、コロナで世の中が変わってしまった今の学部生・大学院生にこそ挑戦してほしいと思っています。私自身、コロナの影響で3年生のSセメスターからほとんどキャンパスに通うことのない学生生活になりました。その時の1年生、2年生、また、その後に入學された方も想像していたような学生生活を送れていない、または、送れなかったと思われる方が大半だと思います。その点において、実際に教室に足を運んで同じ空間を共有する仲間とともに学び、友人と交流し、たくさん旅をして刺激を受けるようなキャンパスライフを楽しむという意味でも、今の時代の留学には意義があるのではないかと思います。留学先にもよりますが、日本よりも制限などがかなり緩和されている国は多いと思います。コロナで以前のような学生生活が失われてしまったのは皆同じですが、その失われた部分を取り返すために行動を起こすかどうかは自分次第です。留学をしようと最初から心に決めていたけどコロナによる様々な変化で迷い始めている人、また、留学を特に考えていなかった人も、ぜひ一度考えてみてください。</p>
<p>■ 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物/Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas :</p>
<p><準備段階> StudentCrowd(学生向け掲示板) <留学中> Grammarly(文法校正サービス) Unidays, student beans(学割クーポン配布サイト) PayPal(現地の銀行口座を作らない場合、現地の学生とのお金のやり取りに) Zotero(ダウンロードした学術論文の管理や参考文献リストの作成)</p>